

# 人権を考えよう

## ～ハンセン病とその問題～

### 目標・ねらい

ハンセン病について、理解を深め、その感染者の人権について考える。  
元ハンセン病患者の方の講演を聞き、命の尊さや生きることの大切さを考える。  
意見交流会を通して生徒同士の命や生きることに対する考え方や感銘を受けたことについて意見の交流を行う。

教育課程上の位置づけ  
学活

### 事前指導・経緯

#### 講演依頼の経緯

- ・前年度より、「ハンセン病とその問題」をテーマにした学習を3学年の学年集会や社会科の授業で取り組んできた経緯があり、本年度は全校で取り組む「人権集会」で、「ハンセン病とその問題」をテーマに取り上げた。
- ・事前学習のための資料(パンフレット『わたしたちにできること～ハンセン病を知り、差別や偏見をなくそう～』:厚生労働省発行)を高松宮記念ハンセン病資料室より取り寄せた。
- ・ハンセン病についての正しい知識を得ること、そして、ハンセン病とその問題を通して、人間の命の尊厳と人権についての考え方を深めるためには、元ハンセン病患者さんの生の声に触れてその体験談を直接聞くことが何よりも有効であり、有意義と考え、千葉県人権啓発センターの紹介を経て、市国立ハンセン病療養所 全生園在住の 氏に講師依頼を願った。



#### ハンセン病についての事前学習

- ・講演会の前に全校の学級で1時間の学級活動を事前学習として行う。  
その際、千葉県健康福祉政策課から借りた啓発ビデオを視聴させる。  
「ハンセン病」と「内藤剛志の中学校トークライブ」

#### 指導の留意点

ビデオ視聴により登場人物の言動と自分の考えを比べて感想を交流させる。  
ハンセン病についてのパンフレットを活用し、知識の補填を行う。

## 実施内容

東村山市国立ハンセン病療養所多摩全生園在住の方の講演を聞く。

【講演内容】

- ・らい予防法のもとで隔離された14歳からの療養施設での体験談。
- ・劣悪な医療と悲惨な生活環境、人権を剥奪された長い月日の体験談。
- ・人間の命を大切にしているのかという観点から、今の問題を考える。
- ・質疑応答。

全校集会で意見交流

講演を聞いて質問を行う。

- ・裁判をおこしたきっかけは何ですか。
- ・差別問題があるが、どうして差別がおこるのか。
- ・自分たち(中学生)で、できることは何か。

学級ごとに感想や意見を発表し合う。



指導の留意点

事前学習で、ハンセン病に関する正しい知識(予備知識)を得ておく。

ハンセン病に関する問題点を焦点化し、問題意識を持って講演に臨む。

元ハンセン病患者さんの生の声に直接に触れることによって、実感的・体験的に問題点を捉え、考えを深める。

テーマ(わたしたちにできること)を設定し、自分の問題として捉え、考える。

## 事後指導

学級に帰って学級活動を行う。

- ・講演を聞き、率直な感想を発表し合う。
- ・命の大切さと人間の尊厳、人権の大切さについて感想文を書く。

指導上の留意点

生の声に直接に触れて、得られた思いや考えを、講演直後に各教室で感想としてまとめる。

他の考えや意見を知ると同時に、知らなかったことや気づかなかったことをふまえて考え方を深める。

『町の小中学生人権作文集』に掲載された代表作文を読み合い、さらに個々の考えを確認し、より確かな啓発を図る。



## 取組の評価

今回の講演とその事前学習を通して、「ハンセン病の問題」に関して誤った見方を正す事や知らなかった事が知れて良かったというような実感的・体験的な思いを感想文にまとめた生徒が多かった。当事者の生の声と、生の思いに直接に触れることができた貴重な体験だった。

「ハンセン病の問題」を通して、「人間の命の尊厳」や「人権」の大切さについて、生徒たちが考え方を深めることができた。

「誤った知識」や「情報の不足」が偏見や差別を生み出すこと。そして、「知る」ということ「正しい知識」を得ることの大切さを実感的に捉えることができた。